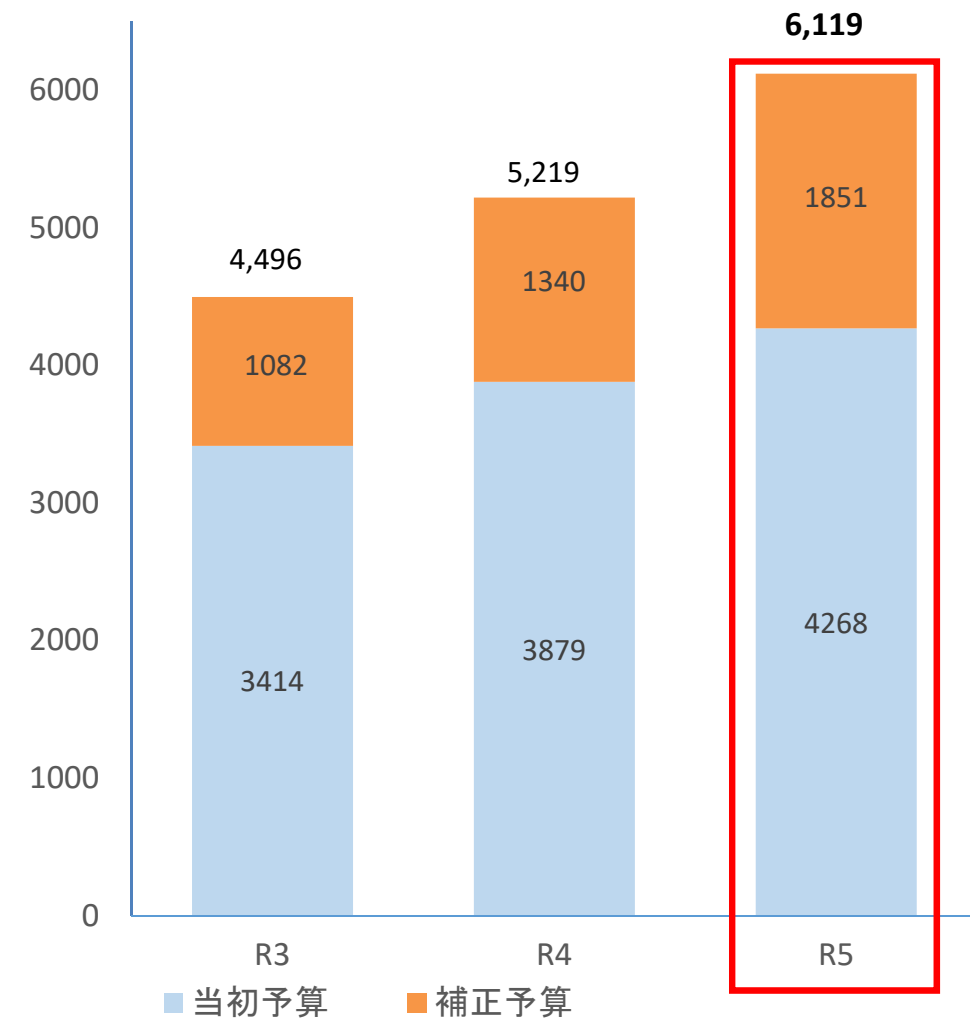


# 令和5年度当初予算案および令和4年度補正予算における宇宙関係予算

合計 6,119億円：令和5年度当初4,268億円+令和4年度補正1,851億円（前年度比900億円増（+17%））  
 （令和4年度当初予算+令和3年度補正予算 5,219億円）

（単位：億円）



府省名	R4 補正		R5 当初		合計(億円)	
		対前年		対前年		対前年
1. 内閣官房	175	0	625	0	800	0
2. 内閣府	190	+10	201	+10	391	+20
3. 警察庁	-	-	9	-2	9	-2
4. 総務省	97	+28	96	-7	193	+20
5. 外務省	-	-	3	0	3	0
6. 文部科学省	639	-48	1,527	+1	2,166	-47
7. 農林水産省	68	-5	34	+6	102	+1
8. 経済産業省	-	-25	211	-1	211	-26
9. 国土交通省	662	+572	216	+52	878	+624
10. 環境省	20	-20	67	+21	87	0
11. 防衛省	-	-	1,278	+309	1,278	+309
合計	<b>1,851</b>	<b>+511</b>	<b>4,268</b>	<b>+389</b>	<b>6,119</b>	<b>+900</b>

※この他、「経済安全保障重要技術育成プログラム」の事業を経済産業省で計上予定

# 主な予算項目（各府省別）

## 全府省庁合計 6,119億円

<b>【内閣官房】</b>	<u>800億円</u>	<b>【農林水産省】</b>	<u>102億円</u>
● 情報収集衛星の開発・運用	800億円	● スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト	44億円
<b>【内閣府】</b>	<u>391億円</u>	● 地理情報共通管理システム（eMAFF地図）の開発	28億円
● 準天頂衛星システムの開発・整備・運用	250億円		
● 小型衛星コンステレーションの構築など 宇宙開発利用の促進	131億円	<b>【経済産業省】</b>	<u>211億円</u>
● 中央防災無線網の運用等	1億円	● 小型衛星等の競争力強化に向けた研究開発	15億円
<b>【警察庁】</b>	<u>9億円</u>	● マイクロ波無線電力伝送による 宇宙太陽光発電システムの開発	4億円
● 高解像度衛星画像解析システムの運用等	9億円	● 無人自動運転技術、水素製造等の研究開発	173億円
<b>【総務省】</b>	<u>193億円</u>	※この他、「経済安全保障重要技術育成プログラム」の事業を計上予定	
● 衛星量子暗号通信技術の研究開発	35億円	<b>【国土交通省】</b>	<u>878億円</u>
● 宇宙天気予報の推進・高度化	15億円の内数	● 準天頂衛星システムを利用した 衛星航法サービスの高度化	44億円
<b>【外務省】</b>	<u>3億円</u>	● 人工衛星の測量分野での利活用の推進	55億円
● 衛星画像判読分析支援、宇宙分野の外交政策の推進	3億円	● 静止気象衛星ひまわりの運用等	25億円
<b>【文部科学省】</b>	<u>2,166億円</u>	● 次期静止気象衛星の整備等	621億円
● H3ロケットの開発・高度化	257億円	<b>【環境省】</b>	<u>87億円</u>
● イプシロンSロケットの開発	60億円	● GOSATシリーズによる地球観測事業等	66億円
● 将来宇宙輸送システムロードマップ実現 に向けた研究開発	54億円	<b>【防衛省】</b>	<u>1,278億円</u>
● 技術試験衛星9号機（ETS-9）の開発	78億円	● 宇宙領域把握（SDA）の強化	286億円
● 衛星コンステレーション関連技術開発	31億円	● Xバンド衛星の通信網の強化等	305億円
● 温室効果ガス・水循環観測技術衛星（GOSAT-GW）	110億円	● 宇宙作戦指揮統制システム等の整備	342億円
● アルテミス計画に向けた研究開発等	405億円		
● 火星衛星探査計画（MMX）	103億円		
● 深宇宙探査実証機（DESTINY+）	59億円		

※ 各金額は四捨五入によって算出

# 宇宙関係予算の主な項目

昨年末改訂した宇宙基本計画工程表に基づき、H3ロケットの実用化など我が国のロケット打上げ能力の抜本的強化や、小型衛星コンステレーションの構築、月面有人探査等を目指すアルテミス計画などの取組を強力に推進。令和5年度予算案および令和4年度補正予算の合計として、関係府省全体で6,119億円を計上。

(※ 令和4年度当初十令和3年度補正(5,219億円)と比べて900億円の増(+17%))

## 我が国の宇宙活動を支える総合的基盤の強化

- **H3ロケットの開発・高度化（文科省）** 257億円
  - ▶ 我が国の自立的な衛星打上げ能力を確保し、宇宙を起点とした社会インフラの構築に資する衛星等を確実に上げるため、官民一体となって、多様な打上げニーズに対応した国際競争力ある次期基幹ロケットであるH3ロケットを開発する。
  - ▶ 併せて、打上げ高頻度化対応等に資する基盤設備の整備・更新を実施する。
- **イプシロンSロケットの開発（文科省）** 60億円
  - ▶ これまでに蓄積してきた固体ロケットシステム技術をさらに発展させることで、宇宙科学分野や地球観測分野などの小型衛星の打ち上げ需要に、幅広く、効率的に対応するイプシロンSロケットを開発する。
- **将来宇宙輸送システムロードマップ実現に向けた研究開発（文科省）** 54億円
  - ▶ 抜本的な低コスト化等を目指す将来宇宙輸送の実現に向けて、要素技術開発を官民共同で実施するとともに、産学官共創体制の構築等、開発を支える環境を整備する。
- **衛星量子暗号通信技術の研究開発（総務省）** 35億円
  - ▶ 量子暗号通信の長距離化・ネットワーク化を可能とし、地上系と衛星系をあわせて距離に依らない堅牢なグローバル量子暗号通信網を構築するための技術の研究開発を実施する。
- **小型衛星等の競争力強化に向けた研究開発（経産省）** 15億円
  - ▶ 国際競争力を有する小型衛星コンステレーションの構築能力を確保するため、低価格・高性能・短納期な汎用衛星バスの開発・実証等を支援する。
- **宇宙天気予報の推進・高度化（総務省）** 15億円の内数
  - ▶ NICTにおける24時間365日の有人体制により宇宙天気予報や警報を送信するとともに、宇宙天気予報の分析の自動化・高精度化・知能化など宇宙天気予報の高度化を推進する。

## 1. 宇宙安全保障の確保

- **情報収集衛星の開発・運用（内閣官房）** 800億円
  - ▶ 外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的とした情報収集衛星の開発等を行う。
- **準天頂衛星システムの開発・整備・運用（内閣府）** 250億円
  - ▶ 宇宙基本計画に基づき、準天頂衛星システム（現行4機）を着実に運用するとともに、7機体制の確立に向けて、機能・性能向上を図り、着実かつ効率的に開発・整備を進める。
- **宇宙領域把握（SDA）の強化（防衛省）** 286億円
  - ▶ 令和8年度までの打上げに向けて SDA 衛星の製造・取得を行うとともに、SDA能力の更なる強化に向けて、複数機での運用についても検討する。
- **Xバンド衛星の通信網の強化等（防衛省）** 305億円
  - ▶ 防衛通信衛星「きらめき」1号機・2号機及び民間衛星を利用する。  
さらに、耐妨害性を向上させた「きらめき」3号機を令和5年度以降に打ち上げて利用する。
- **宇宙作戦指揮統制システム等の整備（防衛省）** 342億円
  - ▶ 宇宙領域に係る指揮統制活動を行うためのシステム等を整備する。

## 2. 災害対策・国土強靱化や地球規模課題の解決への貢献

- **小型衛星コンステレーションの構築など宇宙開発利用の促進（内閣府）** 131億円
  - ▶ 小型SAR衛星コンステレーション利用実証、衛星のフルデジタル化技術、アルテミス計画に関連する月面インフラ技術、将来を見据えた戦略的な技術開発（フロントローディング）など、各省が連携して戦略的に取り組むべき技術開発を着実に推進する。
- **温室効果ガス・水循環観測技術衛星（GOSAT-GW）の開発（文科省）** 110億円
  - ▶ 温室効果ガス観測センサと、「しずく」搭載の海面水温、降水量等の観測センサを高度化したマイクロ波放射計（AMSR3）等を搭載した衛星を環境省と共同開発する。
- **GOSATシリーズによる地球観測事業等（環境省）** 66億円
  - ▶ GOSATシリーズによる地球大気全体の二酸化炭素、メタン濃度の継続監視及びGOSAT-GWの開発を行う。
- **マイクロ波無線電力伝送による宇宙太陽光発電システムの開発（経産省）** 4億円
  - ▶ 長距離送電実証試験に向けた実証機器製作等を実施する。
- **次期静止気象衛星の整備等（国交省）** 621億円
  - ▶ 大気の3次元観測機能「赤外サウンダ」など最新技術を導入した次期静止気象衛星の整備に着手する。

### 3. 宇宙科学・探査による新たな知の創造

- **アルテミス計画に向けた研究開発等（文科省）** **405億円**
  - ▶ アルテミス計画に参画し、月周回有人拠点「ゲートウェイ」に対する有人滞在技術・バッテリーなどの開発・提供や、有人と圧ローバ（宇宙服無しで長期間搭できる月面探査車）等の研究開発を行う。
- **火星衛星探査計画（MMX）（文科省）** **103億円**
  - ▶ 火星衛星の由来や、原始太陽系の形成過程の解明に貢献するため火星衛星のリモート観測と火星衛星からのサンプルリターンを実施する。2029年の世界初の火星圏往還を目指し、2024年打ち上げに向けて開発を進める。
- **深宇宙探査実証機（DESTINY+）（文科省）** **59億円**
  - ▶ 太陽系探査科学分野において、世界に先駆け宇宙工学を先導する小型高性能深宇宙探査機プラットフォームの技術実証及び惑星間ダストの観測並びにふたご座流星群母天体「フェイトン」の探査を行う。

### 4. 宇宙を推進力とする経済成長とイノベーションの実現

- **多様な利用環境における準天頂衛星システム実証（内閣府）** **2億円**
  - ▶ 準天頂システムについて、民間の利活用を更に促進する観点から、必要な技術的検討を行うため、利活用が想定される様々な実環境下における実証を行う。  
※前掲「準天頂衛星システムの開発・整備・運用（内閣府）」の一部
- **スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト（農水省）** **44億円**
  - ▶ 衛星測位技術を用いたトラクターなどを活用し、海外依存度の高い農業資材の削減、食料安定供給への効果が期待される技術の実証を行う。
- **地理情報共通管理システム（eMAFF地図）の開発（農水省）** **28億円**
  - ▶ 農地の現場情報を統合し、そこに衛星画像、作物情報等を重ねることで、地域農業の抜本的な効率化・高度化を図る「地理情報共通管理システム（eMAFF地図）」の開発を進めるとともに、現地確認アプリなどリリースした機能の運用を行う。
- **人工衛星の測量分野での利活用の推進（国交省）** **55億円**
  - ▶ 人工衛星による地殻変動等の監視や、電子基準点網の安定運用のための保守・管理、電子国土基本図の整備・更新など、測量分野での人工衛星の利活用を推進する。

# 宇宙開発戦略推進事務局

## 令和5年度当初予算（案）・令和4年度補正予算

### 1. 実用準天頂衛星システムの開発・整備・運用

**R5当初 167.5 億円 + R4補正 82.5 億円 計 250 億円**

(※ R4当初 167.5億円 + R3補正 110.2億円との合計277.8億円)

- 宇宙基本計画に基づき、準天頂衛星システム（現行4機）を着実に運用するとともに、7機体制の確立に向けて、着実に開発・整備を進める。
- さらに、将来システムの構築に向けた要素技術の開発や、利活用が想定される様々な実環境下における実証を行う。



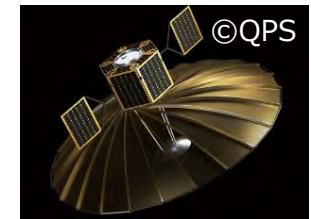
準天頂衛星「みちびき」

### 2. 宇宙開発利用推進費

**R5当初 23.0 億円 + R4補正 107.5 億円 計130.5 億円**

(※ R4当初 13.0億円 + R3補正 70.0億円との合計83.0億円)

- 小型SAR衛星コンステレーション利用実証、衛星のフルデジタル化技術、アルテミス計画に関連する月面インフラ技術など、各省が連携して戦略的に取り組むべき技術開発を着実に推進する。
- 将来を見据えた戦略的な技術開発（フロントローディング）を一層強化すべく新規テーマにも取り組む。



小型SAR衛星

### 3. その他（調査、事務費等）

**R5当初 9.2 億円 (※ R4当初 9.1億円)**

**合計 389.7 億円： R5当初 199.7 億円 + R4補正 190.0 億円**

(※ R4当初 189.6億円 + R3補正予算 180.2億円との合計369.9億円)